

主がほめられた信仰

(ルカ7:1-10)

一、百人隊長の懇願

1節を「ご覧ください」。イエスは、耳を傾けている人々にこれらのことばをすべて話し終えると、カペナウムに入られた。とあります。耳を傾けている人々とは、6章20節から49節までの、主イエスが語られた「平地の説教」を聞いていた人々です。2節を「ご覧ください」。時に、ある百人隊長に重んじられていた一人のしもべが、病気で死にかけていた。とあります。しもべです。から、この百人隊長が家庭を持っていたかどうかはわかりませんが、百人隊長の家にいたしもべ(奴隷)です。しかも、百人隊長は彼を信頼し、たいせつにしていたのでありましよう。ところが、死に至る病に冒されていました。この百人隊長は異邦人でした。ですが、ユダヤ人の信仰に心を聞き、百人隊長コルネリウス(使徒10章)のように「神を敬う人」であったかどうかは分かりませんが、ユダヤ人を愛し、自分で資金を拠出して会堂(シナゴグ)を建てた人でした。そういうことから、ユダヤ人たちから好感を持たれていました。百人隊長は、イエスさまのうわさを、おそらくユダヤ人たちから聞いたのでありま

しよう。しもべを助けたいと思った百人隊長は、ユダヤ人をお願いして、イエスさまにお出でいただくよう、お願いしました。異邦人である自分が直接出向くのは畏れ多いことであるという意識が働いたようにも読めます。

二、主がほめられたこと

さて、いきなり9節に飛びますが、イエスはこれを聞いて驚き、振り向いて、ついて来ていた群衆に言われた。「あなたがたに言いますが、わたしはイスラエルのうちでも、これほどの信仰を見たことがありません。」とあります。この物語に書かれていることの強調点は、主イエスが百人隊長の信仰をほめていることです。何をほめたのでしょうか。これが簡単なようで、けっこうむずかしいです。4節、5節をご覧ください。イエスのもとに来たその人たちは、熱心をお願いして言った。「この人は、あなたにそうしていただく資格のある人です。私たちの国民を愛し、私たちがために自ら会堂を建ててくれました。」とあります。ユダヤ人の長老たちは、この百人隊長がイエスさまから特別に良くしていただく資格のあるという価値観で見えています。ですが、主イエスが「資格」と見られなかったことは、説明するまでもありません。では、何をもって「わたしはイスラエルのうちでも、これほどの信仰を見たことが

ありません」とおっしゃったのでしょうか。百人隊長が「ただ、おことばを下さい」と語り、おことば、すなわち、みことばを信じる姿勢を、主イエスが見られて「わたしはイスラエルのうちでも、これほどの信仰を見たことがありません」とおっしゃったのでしょうか。ところが、ルカの福音書には主イエスが百人隊長に語られた「おことば」、すなわち、みことばが書かれていないのです。百人隊長のことばを見てまいりませぬ。8節です。へと申しますのは、私も権威の下に置かれている者だからです。私自身の下にも兵士たちがいて、その一人に『行け』と言えば行きますし、別の者に『来い』と言えば来ます。また、しもべに『これをしろ』と言えば、そのようにします。とあります。このことばを受けて、主イエスは語られました。「あなたがたに言いますが、わたしはイスラエルのうちでも、これほどの信仰を見たことがありません」と。

三、信仰とは何か?

きょうの聖書箇所には、幾つもの思惑が交錯していると思われまます。主イエスは、百人隊長が語った「ただ、おことばを下さい。そうして私のしもべを癒やしてください」に対して、「わたしはイスラエルのうちでも、これほどの信仰を見たことがありません」と語られます。なぜなら、百人隊長はことばの

力を知っていたからです。ですが、それを「信仰」と受け止めてしまいませんと、やや偏った受け止め方になってしまっていると思います。主イエスが「あなたがたに言いますが、わたしはイスラエルのうちでも、これほどの信仰を見たことがありません」と語られたときに、それを聞いていた群衆がいましたし、また、ルカが福音書を発行したときは、それを聞いていた会衆がいたわけですから、教会として、このテキストから、何を聞き取ることができのでしょうか。これは様々です。狭い意味で考えれば、ルカが係わった会衆に、見えるものに依らないで生けるみことばであるイエス・キリストを信じるという信仰に、弱さがあったのかも知れません。信仰とは、イエス・キリストが救い主にして神であると信じていることです。こうして、キリストを信じる者に、聖霊なる神が確信をお授け下さいませぬ。エペソ書には「1・13このキリストにあつて、あなたがたもまた、真理のことば、あなたがたの救いの福音を聞いてそれを信じたことにより、約束の聖霊によって証印を押されました。」とあります。みことば(キリストの福音)と聖霊の働きによって、私たちが授かった信仰は本物になります。私たちが、聖書に書かれていることばを断片的に信じていることに増して、みことばの中心であるイエス・キリストを信じ続ける者とされましよう。